WAFCAから
年末募金［障がい児教育支援基金］への
ご協力のお願いです

学校に行って友達に会いたい、もっと勉強したい、
みんなと同じように毎日を学校で過ごしたいと考える障がい児。

そんなわが子の喜ぶ顔、できることが少しずつ増えていく姿を見たいと願う家族。

そんな**１人ひとりのチャレンジや想いに**
とことん寄り添うのがWAFCAの教育支援基金です。

WAFCAでは12月4日~1月13日を教育支援基金の募集強化期間とし
会員の皆様に100万円のご寄付を募集します。

WAFCA
WHEELCHAIRS & FRIENDSHIP CENTER OF ASIA

WAFCAの教育支援

障がいの有無に関わらず、すべての子どもたちに平等に、社会の中で自立を目指す権利があります。

WAFCAが車いす支援活動を行っているタイ、インドネシア、中国雲南省の農村部や貧困地域では、経済的・社会的理由で未だに就学や通学が困難な障がい児が多くいます。タイ・インドネシアでは**何らかの教育を受けられる障がい児はたったの30%**というデータもあります。

タイでは障がい児の初等教育の就学率は上がっていますが、**高校や大学進学を支援する公的機関がなく、一気に進学率が下がってしまいます。**インドネシアでは政府の予算不足から、保護者が立ち上げた私設の特別支援学校も多く、**授業料や制服代が大きな負担**となっています。中国雲南省は人口の約6割が貧しい山岳地域に暮らす少数民族です。WAFCAが協働している雲南特殊教育職業学院でも、少数民族出身で障がいのある多くの学生たちが寮で生活しながら学んでいますが、**食費や生活費の仕送りが少なく困っています。**

これらの課題解決に取り組むため、WAFCAでは障がい児教育支援基金を作り、**2022年度末までに2,977人の障がい児に奨学金を届けてきました。**

WAFCAインドネシア

家族の切実な願い。「やっと小学校に入れた。この先も中学、高校へと上がれますように。」

ファジリの母です。息子は9歳。手でサッカーボールを触ることと歌うことが好きな男の子です。知的障がいもありますが少し話すことができます。

家ではWAFCAからもらった車いすに乗って移動し、学校へは毎朝私がバイクに乗せて通っています。WAFCAの奨学金で授業料を払い、通学のための靴を買わせてもらいました。インドネシアの特別支援学校はほぼ私立なんです。公立の学校は本当に限られているため受け入れてもらえません。

家族は3人で、夫は仕事をしていますが、私はファジリと一緒に学校へ行き、付き添いのため仕事ができません。
正直、この子の将来に不安はあります。無事に小学校に入れましたが、**この先中学、高校と進学できるかはわかりません。その先、この子が大人になる姿はもっとわかりません。**

「学校が好き！もっと勉強したい！」
と話すファジリくんとお母さん

ですが、この子が幸せだったら私も幸せです。
日本から支援してくださる皆さんにとても感謝しています。

WAFCA タイ

今年から新社会人
夢を掴んだドリームさんの特別インタビュー

WAFCA職員：最初にドリームさんの障がいについて教えて下さい。

ドリーム：私は十一歳のときから障がいを抱えており、それは高熱で一週間寝たきりになったことが原因でした。その後、回復しようとしても、なかなか元気を取り戻すことができず、次第に体力が衰え、最終的には自分で歩けなくなりました。それ以来、私は学業を中断し、家に閉じこもっていた時期が続きました。

W：WAFCAとはどんな出会いでしたか？

勉強をいつ再開できるか、先が見えなかった時、学校から「WAFCAT（WAFCAタイ）」を紹介していただき、まずは歩けない私に車いすを提供いただきました。その後、復学。それからは私の進学を一緒に考え、寄り添い、その時に必要なサポートをしていただきました。
一年に一度のWAFCAT奨学生が集まる合宿研修や、WAFCA20周年の際は日本にも行かせていただきました。私の進学はいつもWAFCATと共にありました。

W：私たちWAFCAもドリームさんとの素晴らしい思い出でいっぱいです。では、卒業後のことを聞かせてください。

実は**一月から、ウボンチャターニー県庁の市民協働課での就職が決まりました。**
人の役に立てること、仕事をして今度は私が家族を支えられること。ついに夢が叶いました。
WAFCAは障がいのある子どもたちに新しい世界を広げてくれています。今度は私も次の世代を支える側になることを約束します。

学校では周りにいつも友達がいるドリームさん

ドリームさんのお母さんのコメント

ドリームが卒業して最初に感じたのは、「本当に卒業したの？」という驚きでした。
思えばあっという間でしたね。ドリームを誇りに感じました。病気のあと、ただ家にいて、どこに行くべきか分からなかった時期。あの日々を今でも思い出します。
私はこの先、卒業式の衣装を見たときの幸せを一生忘れないでしょう。
これまでのご支援本当にありがとうございました。

身体的な制約があっても、自立の機会を得ることの大切さ

WAFCATは毎年、障がいのある生徒に奨学金を提供し、生徒の能力に合った適切なサポートで大学卒業まで支援を続け、将来的に質の高い職業に就くための機会と平等を提供しています。これにより、身体的な制約を持つ学生たちも他の人と同じように教育を受け、幸せな社会生活を送る機会が得られるようになります。

WAFCAの理事、スタッフ、および参加者全員に幸せと繁栄を祈り、そしてこの障がい児教育支援事業がすべての目標を達成することを願います。

チャイナート県
基礎教育地域事務所所長
プラヨン・サワプームさん

WAFCAグループ全体で次のステップへ。ようやく見えてきた成果を広げるために

WAFCA タイ
教育支援基金担当
オートさん

現在WAFCAタイで障がい児教育支援基金の担当をしています。オートです。

24年の活動を通して、後輩奨学生をサポートする先輩奨学生のネットワークができました。このネットワークのおかげで後輩の皆さんは進路選択の時にロールモデルである先輩に相談したり、交流することで進路が広がります。

高校、大学に進学し就職する子が出てきて、「今が24年の活動の成果がようやく見えるとき。」「次の段階へ行く、節目だ。」とお声をいただきます。

障がい児一人ひとりに寄り添った支援を拡大するため、ご協力をお願いします。

年末募金［障がい児教育支援基金］へのご協力をお願いします

募集強化期間：12月4日（月）～1月13日（土）

障がい児教育支援基金は通年での寄付募集をおこなっていますが
今年はこの期間を募集強化月間として寄付を呼びかけさせていただきます。

寄付目標：100万円

200万円の奨学金の希望のうち、現在100万円の寄付をいただいております。
あと100万円が必要です。
ご寄付の方法は別紙「ご寄付の方法」をご覧ください。

認定NPO法人アジア車いす交流センター
WAFCA
〒448-0026 愛知県刈谷市中山町2丁目38
ディースクエア4F
Tel:0566-23-5822 Mail:contact@wafca.jp